



輝いている人

コンピュータグラフィックス
を活用した仕事をしたい

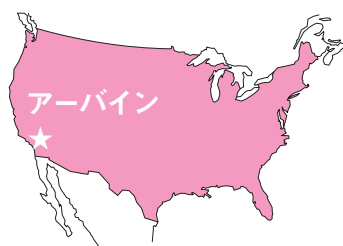


ミスダンスドリルチーム ヒップホップ・ラージ部門

世界に挑む

～総社南高校ダンス部～

総社南高校ダンス部は、出場メンバーで成熟させた若さあふれるダンスをひっさげ、ミスダンスドリルチーム インターナショナル in USA 2008 で世界に挑む。



昨年7月のミスダンスドリルチーム日本大会で5位に入賞し、世界大会への出場権を獲得した総社南高校ダンス部。現在、本番に向けての最終調整の練習に励んでいる。同校が出場するのは、3月29日、アメリカのアーバインで行われるミスダンスドリルチーム インターナショナル in USA 2008 のヒップホップ・ラージ部門（1チーム12人以上の編成）。3年生10人、2年生7人の計17人がこの晴れ舞台に立つ。メンバーが独自に編集したオリジナル曲のり、流れるような動きで観客をひきこむ格好の良いダンスがこのチームの売りだ。衣装も、自分たちで工夫して作り上げたものを使う。

この部門は、ダンス全体の統一性や表情などが採点のポイント。「うちはチームワークがいい。みんなの動きが良くそろおう」と、サブリーダーの野口友紀さん。ダンスも日本大会のものをさらにアレンジしたり、構成を変えたりしたもので、このチームの集大成とも言えるものになる。顧問の青山敦子教諭も、「勢いで攻めていくダンスをにこやかに、体全体でアピールしてほしい」とエールを送る。保護者会の代表である佐野登さんは、「出場が決まってから、子どもたちが悔いの残らない大会になるよう応援しよう」と結束しています。皆さん、世界大会遠征のご支援をお願いします」と、言う。大会まであとわずか、南校ダンス部、がんばれ！



リーダー
武田清嗣さん
(3年)

日本代表の名に自分勝手な見解を押しつけて、勢いで大学受験を全うしようとした。ダンスの練習も、部員がこめなで本番に臨みたい。応援をお願いします。

デジタル岡山グランプリで「ふるさと岡山賞」を受賞した

尾関圭さん(中央六丁目)

第2回映像コンテンツテストデジタル岡山グランプリのアニメーション部門で「ふるさと岡山賞」を受賞したのが、尾関圭さんだ。

受賞作品は、「雪舟記」。

雪舟が涙でネズミの絵を書いたという話を、コンピュータグラフィックスで作った約5分間のアニメーションだ。雪舟の描いたネズミが動き出して、おなかのすいた雪舟にまんじゅうを運んで来るという独自のお話も盛り込まれている。

今春、岡山県立大学大学院デザイン学研究科を卒業する尾関さん。総社で暮らした証を何か残そうと思ったのが応募のきっかけだった。そして、真っ先に頭に浮かんだのが、「岡山といえば雪舟」という言葉だった。雪舟については、子どものころから本を読んでいたという。

10秒作るのに何時間も掛かるコンピュータグラフィックス。応募期限が近づくと、パソコンと向き合い続ける徹夜の作業が続いた。パソコンの画面の三重塔の屋根を指差しながら、日本画の筆のタッチで描いたと教えてくれた。苦労したが、誇れる点だ。「決して満足は行く出来ではなく、受賞するとは思わなかったの、うれしい」と、目を細めて受賞の喜びを語る。

卒業後は、パソコンを使って、人に分りやすく視覚的なものをデザインする仕事に携わる。「将来的には独立して、コンピュータグラフィックスを活用した仕事をしたい」。淡々と語る目線の先に熱いものを感じた。

※コンピュータグラフィックスはパソコンで作る動画。CGと略される